

工化時報

第16号



目次

大学の大众化の中で(矢野彰一郎).....	P.2
工化時報アンケートのお願い.....	P.3
工化会会長の就任に寄せて..... (安達 昭郎)	P.4
新任紹介(アンケート形式).....	P.4
卒業生からの便り(真野 敦史).....	P.5
卒業生からの便り(鈴木 義弘).....	P.5
船橋?駿河台?あなたはどっち.....	P.6-7
年表・就職状況・お知らせ.....	P.8
編集後記.....	P.8
会社広告.....	P.6-8

物質応用化学科

Department of Materials and Applied Chemistry

グローバルな視野に立ち
ユニークな思考力を発揮できる
化学技術者の育成

大学の 대중化の中で

物質応用化学科 教室主任 教授 矢野 彰一郎



新聞やテレビなどのマスコミで報道されているように、いま大学の 대중化ということがいわれております。それは理工学部物質応用化学科においても例外ではありません。最近では受験生を集めるために、昔とは異なり入学試験も多様化しております。例えば11月から12月にかけては指定校推薦、公募制推薦、付属校推薦などがあり、また1月から2月にかけてはセンター試験と通常の一般入試を行っています。すると、偏差値でいうと(良い悪いは別に、最も単純に学生を客観的に選別する方法としてよく使われます)40から70の間の多様な学生が入ってきます。大部分は化学の勉強より、とにかく単位さえとって卒業して、就職できさえすれば良いといったきわめて小市民的学生が増えてきています。その結果、教室の中ではどのようなことが起こるかという、堂々とペットボトルの飲料水を飲みながら、授業は聞かずに私語ばかり、そこに居るのに飽きると授業中でも勝手に教室を出入りする、携帯電話が鳴ると平気でかける、一番前の席でも机にうっ伏して居眠りするといったことが日常茶飯事で起こっています。しかし、これは全て「学生の態度が悪い」ということで済ませられることかどうか疑問のあるところであります。

私は最近50名程の一部の学生だけではありますが、試しにアンケートをとってみました。まず、彼等の意欲の問題は別にして授業がわからないと訴える学生はかなり多くいます。しかし、我々教える側が反省しなければならない点も多々あることに気がつきます。例えば板書の字が汚くてわからない、色チョークを使用すると(特に青)光って見えない、書いたと思ったらすぐ消すのでノートがとれない、声が小さい(自分達の私語は棚において)、学生の目を見て話さない等々です。授業がわからないのは我々の責任も一部あるのではないかと、つまりわからせる努力が欠けている、ということもあるのではないかと感じるようになりました。

いま、学生は多様化しています。理系の学部に入ってくるのに、高校で数学、物理、化学等理系の学科を十分に学んでこなかった学生に微分・積分を使った講義や力学物性を教えても、うわすべりばかり

で、十分な理解を求めても無理な話ではないかと思えます。実験についても恐らく何をやっているのかわからないのではと思います。やはり一定の導入教育の必要性を感じます。大学としては、高い授業料をとっている限り、こうした学生が満足して卒業していく環境作りをしなければならない時代になってきているということでしょう。それには、大多数の学生がわかる授業をやる中で、何らかの付加価値をつけて世に送り出すことが必要です。つまり物質応用化学科が何を目標として教育していくのか、化学者の育成か、中堅技術者の育成か、研究者の育成かをはっきりとさせておくことは重要なことと思えます。

当学科では、最近の科学技術が大きく進展していく中で、社会のニーズに対応した教育をしていくという観点から、昨年工業化学科から物質応用化学科という名称へと変更し、カリキュラムも一昨年変えました。しかし、今後の少子化とさらなる大学の 대중化を見据えて、物質応用化学科ではいまワーキンググループを組織しながら、新々カリキュラムの編成を準備しているところです。これは、わかる授業と実験、安全な実験、希望の持てる授業システム、ゆとりあるカリキュラム、JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education; 日本技術者教育認定機構、昨年11月に発足)の認定が得られるカリキュラムを目指しております。そのためには抜本的なカリキュラムの改正と共に教職員の意識の変革がぜひ必要です。

大学は、教育と研究の場といわれております。大学の 대중化は、ある意味では研究のレベルダウンにつながる危険性があります。研究は社会との一つの接点でもあります。研究の活性化については、大学院の充実を軸にした一定の変革が必要になります。また、教員自身ももっと外部との接触を図るべきであり、外部予算の獲得に積極的になる必要があります。

大きな夢を持ち、希望に燃えて生き生きとした、世の中の役に立つ学生を送り出すために、我々は2号館のソフトとハードを大きく変えていきたいと考えております。

工化会会長の就任に寄せて

会長 安達昭郎
(昭和35年卒)



工化ご卒業の皆様方にはご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。学生会員の皆様、教職員の皆様には日々勉学に、教育に、また研究にと努力、ご尽力されていると思います。「大学は卒業生、学生と教職員が三位一体となって発展を図ることが本来の姿である」と理工学部部長が確信をもって様々な施策を推進されていますが、まさに工化会の活動、充実が即大学の発展をもたらすと言えましょう。私は昨年、前会長細谷文夫氏の後を受けて会長に就任しました。これからの3年間を旧役員の皆様と会員のご協力をいただきながら新役員共々会の活動、運営に携わっていく所存です。

化学の新しい発見は環境への影響と共に進められるものです。それに則った学生の科学・技術の習得と、新しくは起業家精神をも身につけて行かねばとする21世紀の大学の使命は少子化問題とともに厳しい時代に遭遇しています。その中で益々工化会の役割が重要になっていくような気がします。

会の活動はこれまで折りにふれ時報とか桜工などで紹介され、皆様の目にふれていると思いますが、まずは多くの会員の参加が待たれます。比較的頻繁に行われている親睦を図る同期会や研究室での集いなどを通して工化会への活動に参加して頂くように呼びかけをしたいと思います。

工化会に限らず全日大の各学部校友会に共通した問題は会費徴収がはかばかしくないことです。この問題にも会員皆様のご理解とご協力が必要であります。お願いごとばかりのようですが、昨年には工化60周年を記念しての名簿が発行され、また毎年の工化時報を通して会員相互の交流の繋ぎ役として努めて来ております。

平成12年は理工学部創立80周年にあたります、また工科校友会は設立50周年を迎えての記念すべき年です。そして物質応用化学科もスタートして2年目を迎え、新たな理工学部の創成に向けて新しい世紀を迎えようとしています。このミレニアム時代に入るにあたり何かを行おうではありませんか。大学、校友会それぞれにて学生、卒業生を結ぶ絆として日大カード(仮称)の発行実現、ホームページの開設が検討されています。また、駿河台1号館の建替え工事計画に工科校友会では記念事業募金をしております。会員皆様の力強いご支援を期待しております。

以上会長就任に寄せてのご挨拶としますが、お願いごとばかりになってしまいました。是非とも会の活動に参加されるよう願ってやみません。

平成12年3月

新任紹介

今回はアンケートに答えていただく形式にしました。質問事項は以下のとおりです。

- Q1. 自分の学生時代はどうでしたか
Q2. 今の学生に対して一言
Q3. 抱負など

大月 穰
有機合成化学研究室
専任講師



略歴 1991東京大学大学院工学系研究科合成化学専攻博士課程修了、工学博士 1991~1999東京大学生産技術研究所助手 1999現職

- Q1. いろいろ考えながら実験しました。研究室のあった六本木も楽しみました。
Q2. それぞれの世代のスタイルがあっておもしろい。
Q3. 世界をリードする研究成果を産みだしていきたい。

萩原 俊紀
高分子合成研究室
助手



略歴 S61年 理工学部工業化学科卒 S62年 東京都立大学大学院修士課程入学 H1年修了 積水化学工業(株)を経て、H3年(財)相模中央化学研究所入所、H9年退職 日立化成工業(株)を経て、H11年より現職、博士(工学)。

- Q1. 当時はいろいろわかっていづもりだったが、今考えると結局、何も知らなかったのだと思います。そう考えると、今の学生達と何も変わらなかったのでしょうか。
Q2. 今は昔に比べれば、情報、機器、コンピュータなどハードウェア面では格段に優れているのですから、昔よりも容易に、もっと高いレベルに到達できるはずですよ。

遠山 岳史
無機材料化学研究室
助手



略歴 平成2年4月 日本大学理工学部工業化学科入学 平成6年4月 日本大学大学院理工学研究科博士前期課程入学 平成8年4月 日本大学大学院理工学研究科博士後期課程入学 平成11年3月 日本大学大学院理工学研究科博士後期課程 修了現在に至る、博士(工学)。

- Q1. 遊びに勉強、アルバイトと普通の学生でした。
Q2. 遊びやアルバイトの友人だけでなく、勉強での友人も作ってください。
Q3. 現在は、化学の世界も敷居がなくなりつつあるので、分野にとらわれない研究をしていけたらと考えています。

浮谷 基彦
生物資源化学研究室
助手



略歴 日大一中・一高・理工・大学院を卒業。日大助手として残り現在に至る。

- Q1. 学生としての本分(勉強・趣味・遊び?)をまっとうし、実に有意義に過ごしました。
Q2. やる事やってから遊んでください。
Q3. 研究室の一体化を計る。あまり実験出来なかったのが、実験して結果を出す。車の運転下手なので練習するetc.

谷川 実
環境微生物学研究室
助手



略歴 平成4年 神奈川県立相模原高等学校卒業 平成11年 日本大学大学院理工学研究科工業化学専攻 博士前期課程修了 現在に至る。

- Q1. 毎日のように飲んでました。
Q2. 学生のうちしか出来ないことをやってください。
Q3. なるべく学生に混ざっていけるように努力していきたい。

卒業生からの便り

学科名改称にあたり 母校と学生に期待します

新エネルギー・産業技術総合開発機構

真野 敦史

(平成4年3月卒)

物質応用化学科への改称おめでとうございます。

かつて在籍していた母校の学科名が改称されたことを知り、一抹の寂しさと今後の母校の発展・活躍に対する期待が交錯しているというのが、卒業生の正直な心境ではないでしょうか。また私にとっては、在学中に編集に一部協力させて頂いた工化時報(この名称も変更されるのでしょうか?)から、この事実を知ったことも嬉しく思います。大学を卒業し、実際に社会に出て仕事に携わるようになると、世間の化学技術に対する目が非常に厳しいことを臨場感を持って知ることができます。自社製品に対する様々な質問や意見が、連日のようにユーザーから寄せられるからです。それらの中には、現在社会問題となっている環境ホルモンや遺伝子組み換え農作物の問題のように、一部の専門家の間で話題になっていたことが、瞬く間に多くの人々へと浸透して社会問題化し、様々な企業において個々の対応を迫られるようになったものも少なくありません。そこで、学生の皆さんには、一部の専門家の興味を引く研究テーマのみに関心を持つのではなく、自分の研究テーマが、いつ社会問題と関連するか判らない変化の激しい世の中で、自分の研究テーマと、世間の出来事、動向又はものの考え方を照らし合わせつつ、正確に現状を分析し、かつ判り易く自分自身の意見をアピールすることができる能力を持つ化学者になって欲しいと思います。具体的には、「新聞はテレビ欄か週1回の科学ページしか読まない。」というのではなく、経済面や専門外の雑誌・書籍などについても積極的に関心を持ち、かつ自らの意見を主張できるようになって欲しいと思います。なぜなら、企業内では、ある問題に対して、社内外の個々人の問題意識とそれに対する意見が必要とされる場合が多い

からです。一方、世界規模で競争しなければならない今日の企業にとって、今や新卒者をじっくりと教育する余裕は余りありません。給与体系も、個人の能力に合わせた処遇へと移行し、中途採用も増えているのが現実です。即ち世の中は、個人の能力に報いる仕組みに変わっているのです。従って大学には、就職活動で時間的な制約が多く、かつ減少傾向にある18歳人口を中心としたカリキュラムを組むだけでなく、自己研鑽意欲の旺盛な社会人を対象として幅広い職種や年齢層の人々の学ぶ場、さらには意見交換の場をも合わせ持つ教育機関へと脱却して、合わせて大学生生き残りの時代を乗り切ってほしいと思います。最後に、今後の物質応用化学科とその関係者・卒業生の皆さんのご発展を心より祈念致しております。

今の私を支えるもの

埼玉県議会議員 鈴木 義弘
(昭和60年3月卒)

研究者に憧れ、わけもわからずに研究していた自分。あれから約15年の月日が経ちました。振り返ってみると汚れた白衣・薄暗い研究室、鼻を突き刺すような溶剤の臭いが今は懐かしく感じられます。15年を経た私は、昨年、統一地方選挙において、36歳で県議会議員選挙に挑戦し、多くの方々に支えられ、当選の栄誉を得ることができました。政治と化学まったく違った分野ではありますが、根底には化学とかわりあう部分も少なくありません。環境問題にしても化学をはずして論議することはできませんし、化学を必要としている分野は数多くあるはずだと思います。学生時代は人生において短い期間です。この短い期間に知識はもちろん、いかに多くのことを吸収していくかがポイントだと思います。私にとっては今の自分を支えてくれる重要なポイントであり、ベースになっているのが学生時代に培った化学であると自負しております。私は化学の心を持って政治という違う分野での知識の融合をはかり、これから政治の世界で汗を流していこうと思っております。進む道は違っても、わが母校から一人でも多くの人材が未来に向けて、羽ばたいてくれる事をご期待申し上げます。

船橋？駿河台？あなたはどっちの校舎がいいですか？

(学生編集委員)

私たちの学科では現在、1、2年次船橋校舎と3、4年次駿河台校舎と2つの校舎で学生生活を送る環境にあります。そこで今回は、実際に学んでいる私たち学生達が「校舎が変わることについてどう考えているのか」についてアンケートを行ってみました。

1年生 180名(内男子130名、女子50名)、2年生 135名(100名、35名)、3年生 94名(63名、31名)、4年生 140名(105名、35名)合計549名の回答が集まりました。ご協力頂いた皆さんどうもありがとうございました。なお、学生の男女比についてですが、各学年とも女子の割合が約3割程度でした。

まず住居について聞いてみました。3、4年生には船橋校舎に通っていた時と駿河台校舎に移った時とに分けて答えてもらいました。船橋校舎から駿河台校舎に移って来て、まず変わることは、下宿から実家へ住居を移す人が多いことです。駿河台全体では、通学手段の96%以上が電車通学でした。駿河台校舎のある御茶ノ水は、交通の便も良く、船橋校舎に比べてどこからでも通学が可能です。通学手段とも関係しているのですが、交通の便がいいぶん通学時間が駿河台校舎の方が短くなっています。駿河台の長所の理由としては、「家から近い。」「交通の便が良い。」などを挙げていました。また駿河台校舎で下宿している人は、総武線の錦糸町～船橋間や地下鉄などでも都心から少し離れたところで通学時

間が15～30分の場所に住んでいるケースが多いようです。

一方、船橋校舎は、校舎の周りに学生のための寮やアパートが沢山建っていて、独り暮らしの80%以上は学校周辺に住んでおり、通学時間も15分未満の人が多くいます。電車通学の方は4年前に東葉高速ができて通学が便利になったとはいえ、乗り換えの西船橋駅は総武線の各駅停車しか止まらず、新京成線の北習志野駅は学校まで徒歩で20分もかかってしまいます。「まだまだ交通の便が悪く通学時間がかかる。」「通学する前は通えると考えていたが実際は時間がかかりすぎて無理だったため、途中から独り暮らしにした。」等の意見も見られました。中でも女性の独り暮らしは男性に比べると少なくなっています。やはり、可愛い娘を独り暮らしさせるのは、両親としては心配なのでしょうか？校舎が変わることを受験前から知っていましたか？という問いについては約80%の人が知っていると言っています。4年生では他の学年よりも1.5～2倍近く知らなかった人がいました。そこで希望として、どちらの校舎に何年間居たいのかについて尋ねてみると1年生は「駿河台に4年間」という意見が他の学年に比べて多いようです。やはり大学と言えば東京のイメージがあるのでしょうか？しかし、2年生になると船橋校舎の良さも分かってくるようで、一転して「船橋と駿河台どっちでも良い」という意

私達と一緒に仕事しませんか！

火薬エネルギーの利用を通して社会に貢献

救難用・宇宙開発用・医療用の各種火工品



細谷火工株式会社

昭和32年卒 代表取締役社長 細谷 文夫

本社工場 〒197-0801 東京都あきる野市菅生1847

TEL 042-558-5111

ポリオレフィン系コンパウンドの製造・販売



昭和化成工業株式会社

□本社・工場 〒348 8585
埼玉県羽生市小松台1-603-29
TEL 0485-61-5221 FAX 0485-61-5229

□東京支店 〒101-0032
東京都千代田区岩本町3-3-2 アックス神田8F
TEL 03-5823-1301 FAX 03-5823-1304

□技術 試験
TEL 0485-61-5225 FAX 0485-61-5228

□大阪支店 〒532-0011
大阪府大阪市淀川区西中島6-1-3 724ビル大阪東2F #10F
TEL 06-6307-2727 FAX 06-6307-2748

昭和53年卒
代表取締役社長 池本 俊一

□名古屋営業所 〒450-0002
愛知県名古屋市中村区名駅3-15-1 名古屋イイトビル2F
TEL 052-581-2211 FAX 052-581-2385

産業廃棄物収集・運搬中間処理のスペシャリスト



株式会社 三栄興業

〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎3-302

60年卒 鈴木 義弘

TEL 0489-55-1632 E-mail:sanei@pc-mind.co.jp

化粧品原料から製品まで 化粧品OEMメーカー

東色ピグメント株式会社

〒124-0012 東京都葛飾区立石6-37-14

昭和58年卒 代表取締役社長 嶋原 靖宏

TEL03(3693)1050 FAX03(3693)1053

生になると船橋校舎の良さも分かってくるようで、一転して「船橋と駿河台どっちでも良い」という意見が増えてきます。広いキャンパスゆえのサークル活動や体を動かす遊びなど出来てとても良いためでしょうか？3,4年生ではやはり就職活動の影響からか、「駿河台の方が良い」派が増えてきます。全体では「校舎は4年間一緒に良い」派が全体の70%を占め、船橋校舎23%、駿河台校舎43%でした。意見としては「面倒くさい。」「再履修が大変。」「質問したいときに教授が居ない。」などがありました。一方、「校舎が替わった方がよい」派の多くは「気分が変わって良い。」等の意見でした。また、サークルをやっている人には「船橋校舎に4年間。」が多かった気がします。

船橋校舎の最大の長所は、なんと言っても昼食が安いこと！船橋は校舎が北習志野の商店街から離れている為に周りには食べ物屋がほとんどありません。その為、校舎内にパスカル、ダビンチ、ファラデー、13号館と4つの学食があり、96.5%が¥500未満で昼食をとっています。¥300あれば充分お腹がいっぱいになるくらい食べることができ、麺類ならば¥150程度で食べられます。人気のある学食はやはりパスカルとダビンチでした。理由として考えられるのは、10号館にも13号館にも近く、値段も手頃なのが人気を呼んでいるのではないのでしょうか。13号館も安いと思いますが、ボリュームがかなりあるので女子にはあまり人気がないようです。そして何よりパスカル、ダビンチ、ファラデーに囲まれた広場は、いかにも「大学のキャンパス」という雰囲気があって、人気の一因ではないのでしょうか？

一方、駿河台にも学食はあるのですが、工業化学科は他の学科の校舎と離れており、学食が遠いため2.8%しか利用していないようです。近くにある明治大学の学食の方が10.1%と日大の学食よりも多

くの人が利用しています。確かに日大の遠くて狭い学食に行くよりも近くてかっこいい？明大食に行きたくなるのも無理はないと思います。駿河台校舎では昼食をどのようにとっているかと言うと、1. コンビニ (32.3%) 2. ファーストフード(19.1%) 3. お弁当 (14.9%) の順となり、近くにあるお店は、コンビニはampm、JustSpot等、ファーストフードは、マクドナルド、ファーストキッチン、ケンタッキー等やお弁当は、お昼になると車で8号館周辺に売りに来るお弁当屋が何軒かあります。他にはマルコ・デ・ポロと言う店があり、いろいろなものが売っていて最近人気があります。店の選択肢はものすごく多いので飽きることは無いと思いますが、学生の1番の問題は「お金」ではないのでしょうか？やはり昼食に¥500~¥1000かかる割合が、67%となり、船橋に比べると昼食の値段が倍以上かかってしまいます。また少し豪華にレストランなどに行けば¥1000以上かかってしまいます。

これらのアンケートから、70%近くの人が「4年間同じ校舎」で、その中の60%の人が「駿河台校舎」という意見になりました。ちょっとくらい昼食が高くても、交通の便が良く、都会で遊ぶ場所も多い、さらに就職活動にも便利な駿河台校舎に軍配があがったようです。現在の「船橋2年間駿河台2年間」という方式には20%ぐらいの人しか満足していないようです。きっと先生方もわざわざ授業のたびに、船橋に行くのは面倒くさいのでは？校舎が分かれていても再履修などは単位を落とさずに船橋校舎のうちに取ってしまえばすむことですし、他の学科では2年次に毎週1回「駿河台デー」があるそうです。それと比較すれば、工業化学科は1,2年次まですべての授業が船橋校舎で行われるので、交通費も余分にかからず、十分に船橋校舎を満喫できて良いのではないのでしょうか？

化学工業薬品・電子材料の販売

石井化学産業株式会社

〒193-0932 東京都八王子市緑町4 2 9番地の1

昭和41年卒 代表取締役 石井 昭久

TEL:0426-26-9211 FAX:0426-25-9155

電子工業用薬品、高純度化学薬品、有機合成薬品、分析用試薬、実験用器具

ふくべ薬品株式会社

本社 神奈川県横浜市今泉1006番地 TEL.(0463)82-2263(代) FAX.(0463)83-1459
東京支店 東京都北区上十条3丁目21番3号 TEL.(03)906-6651(代) FAX.(03)900-4846
市原営業所 千葉県市原市青葉台4丁目5番6号 TEL.(0436)61-1951 FAX.(0436)61-1770

昭和40年卒 代表取締役 瓜本 英雄

◎ 年表

1999年

学科名を工業化学科から物質応用化学科に名称変更
 大月 穰 専任講師 東京大学生産技術研究所より
 着任
 浮谷 基彦 助手 新任
 谷川 実 助手 新任
 萩原 俊紀 助手 日立化成(株)より着任
 遠山 岳史 助手 新任
 和井内 徹 教授 定年退職

平成11年度 就職状況

出口の見えない不況下ですが、本学科の就職状況は健闘しているといえるでしょう。平成9年からの大学と企業間の就職協定の廃止から活動時期はやや早まっていますが、内定時期は例年通りでした。求人件数も平成7年を底に徐々にですが増加しています。また業種別では製造業が全体の約3割を占め、次に情報・サービス業 22%、商業 8%と続きます。他には大学院進学が19%程度、教員・公務員が5%を占めます。大学院の場合は進学が減少する他の割合は学部とほぼ同様です。また、応募方法についてですが、ここ数年急激な変化はありませんが、学校推薦の占める割合が若干減少傾向にあるのに対し、自由応募の占める割合が年々上昇しています。

パッケージと人間の未来を見つめて・・・
 PACKAGE WORLD

富士特殊紙業株式会社

昭和47年卒 専務取締役 藤木 孝 人
 筑波工場 〒315-0002 茨城県石岡市大字柏原19番2
 TEL:0299-24-3011 FAX:0299-24-3014

広 告 募 集

工化時報では会社広告を募集しています。
 広告掲載の詳細につきましては会報委員会まで
 お問い合わせください。

掲載料 1年:10,000円

お 知 ら せ

- 日本化学会第78春季年会が3月28日(火)~31日(金)、船橋校舎で開催されます。
- 理工学部では平成11年度から15年度の5年間、文部省ハイテクリサーチセンター整備事業 ナノサイエンス研究プロジェクトに採択され、物質応用化学科では「バイオメティックプロセスによる構造融合化材料の設計と創製」という課題で総勢22名で取り組むことになりました。
- 理工学部では5月27日(土)N.U祭、7月16日(日)オープンキャンパス、7月29日(土)1日体験化学教室、キャンパスウォッチング(駿河台校舎:11月3日(金)、船橋校舎:11月5日(日))などが予定されています。お時間ございましたらぜひ足をお運び下さい。
- 工化時報では引き続き皆様からの投稿をお待ちしています。また会社広告も是非お寄せ下さい。

連絡先:

TEL:03-3259-0827

FAX:03-3293-7572

E-mail:jihou@chem.cst.nihon-u.ac.jp

編 集 後 記

◎ 編集後記2010年の大学全入時代を見据え、大学においても様々な改革が必要となっています。我々教職員もよりよい方向を模索中です。学科の将来に卒業生の皆様のご意見を反映たく今号はアンケートを企画しました。お一人でも多くのご協力をお願いいたします。また会員の皆様の中で記事の企画案などがありましたら会報委員会までご一報下さい。

発 行 所

東京都千代田区神田駿河台1-8
 日本大学理工学部工化会会報委員会編集委員会

◎伊藤和雄、永島一男、澤口孝志、深津 誠、小嶋芳行、谷川 実、森田孝節
 学生編集委員

M2 加藤恵子、宗田雅裕

M1 梅沢麻耶

4年 荻野加奈子、佐藤亮介、杉本典子、太丸 卓、前川真貴子

3年 河井美奈子、河村真由、小島正浩、末広 智、中村幸二、

松沢 斉

2年 丹野雅弘、巴 義和、中川直樹、藤田 泰、養島麻子、

森谷真希、安川知子